

四万十町文化的施設整備事業町民向け講演会 「『つながる図書館』から『町の未来をこの手でつくる』まで ージャーナリストが見た『まちづくりと図書館』」

四万十町で現在進めている新しい文化的施設整備への町民各層の関心を喚起し、主体的な参画を引き出す契機とすべく町外から高名な講師を招聘し、「新しい文化的施設とまちづくり」の意義をあらためて認識する機会を設けました。

講師として招聘する猪谷千香さんは弁護士ドットコム記者として活動する一方で、図書館やまちづくりに関するジャーナリストとしても活躍されています。今回、猪谷さんを講師にお迎えし、これまでの取材活動に基づくご知見を語っていただくことで、四万十町における図書館と美術館の2つの役割を備える新しい文化的施設の可能性を考えます。

2019年8月12日（月・振休）

四万十町役場本庁東庁舎1階多目的大ホール

主催：四万十町教育委員会

【模様 1】



【模様 2】



【まとめ】

お盆、そしてよさこいのさなかではあったが、町内外から関係者を含めて約50名の参加がありました。特に町外からの参加では佐川町の堀見和道町長ご夫妻がお越しくださり、講演前の昼食にもご参加いただきました。佐川町は本町に比べて1年遅れで新図書館整備時事業を進めており、同種の事業に取り組む近隣自治体としての協力関係の充実を互いに確認できたことは重要な成果であったと思います。

ご講演では1960年代以降の図書館政策の動向を概説していただいたうえで、須賀川市民交流センターtette（福島県）、伊万里市民図書館（佐賀県）、舟橋村立図書館（富山県）、瀬戸内市民図書館もみわ広場（岡山県）、武蔵野プレイス（東京都）、ぎふメディアコスモス（岐阜県）、恩納村文化情報センター（沖縄県）、指宿市立図書館（鹿児島県）、紫波町オガールプロジェクト（岩手県）、県立長野図書館と全国各地の実際に猪谷さんが取材してきた施設の取り組みをご紹介します。

ご講演は「どれだけ自立した市民が公共の場である図書館で成長し、未来を作り、社会を持続できるか？」という問いかけで結ばれ、参加者にとって文化的施設へのこれからの関わり方を考えるよい機会になってものと思われます。

なお、講師である猪谷さんには前日当日に、大正・窪川の両地区を散策し、同伴された小学校2年生のお嬢様は川遊びもしていただきました。こうした時間には文化的施設検討委員会の委員の方々が対応してくださり、猪谷さんからも大変なご感謝を頂戴しました。このような心暖まる地域の方々のご対応こそが、四万十町を気にかけてくださる方を育てていくと思われます。ご協力いただいた委員の方々には心から御礼申し上げます。